續藤栗毛九編 十二上

へ13
359
6

門 へ13
號 3759
卷 6

善光寺中續膝栗毛元編序

くら峯の弓矢山風雨ふきもとゝろ
松の森ものこる年波
流をきく処梓築摩
里ごゝろ相応寺内の駿馬ふ所
ゝ数老やこの寺の麦の喰跡せし
頃のそのまゝ生ふる法めく

連ね
笹小屋寺ふ詣でゝ
たゝ拝ぐ小田井の庵もこと
えぐれを強訪の湖乃深ふこと
いつ涙風鈴の
和ぐぼこゝろ相川雲あるも

かくも成(さと)れる久(ひさ)しき事跡(ことあと)の記(しる)し

著者(あらわしたるひと)の素志(もとのこころざし)の程(ほど)

又(また)一部(ひとつ)の書(ふみ)

十返舎一九誌(じっぺんしゃいっくしるす)

道中續膝栗毛九編　上冊

十返舎一九著

信濃(しなの)なる淺間(あさま)が嶽(だけ)より烟(けむり)の吉凶(きっきょう)を占(うら)ふ事(こと)

いでよく人(ひと)の考(かんが)ふる所(ところ)ありしがい

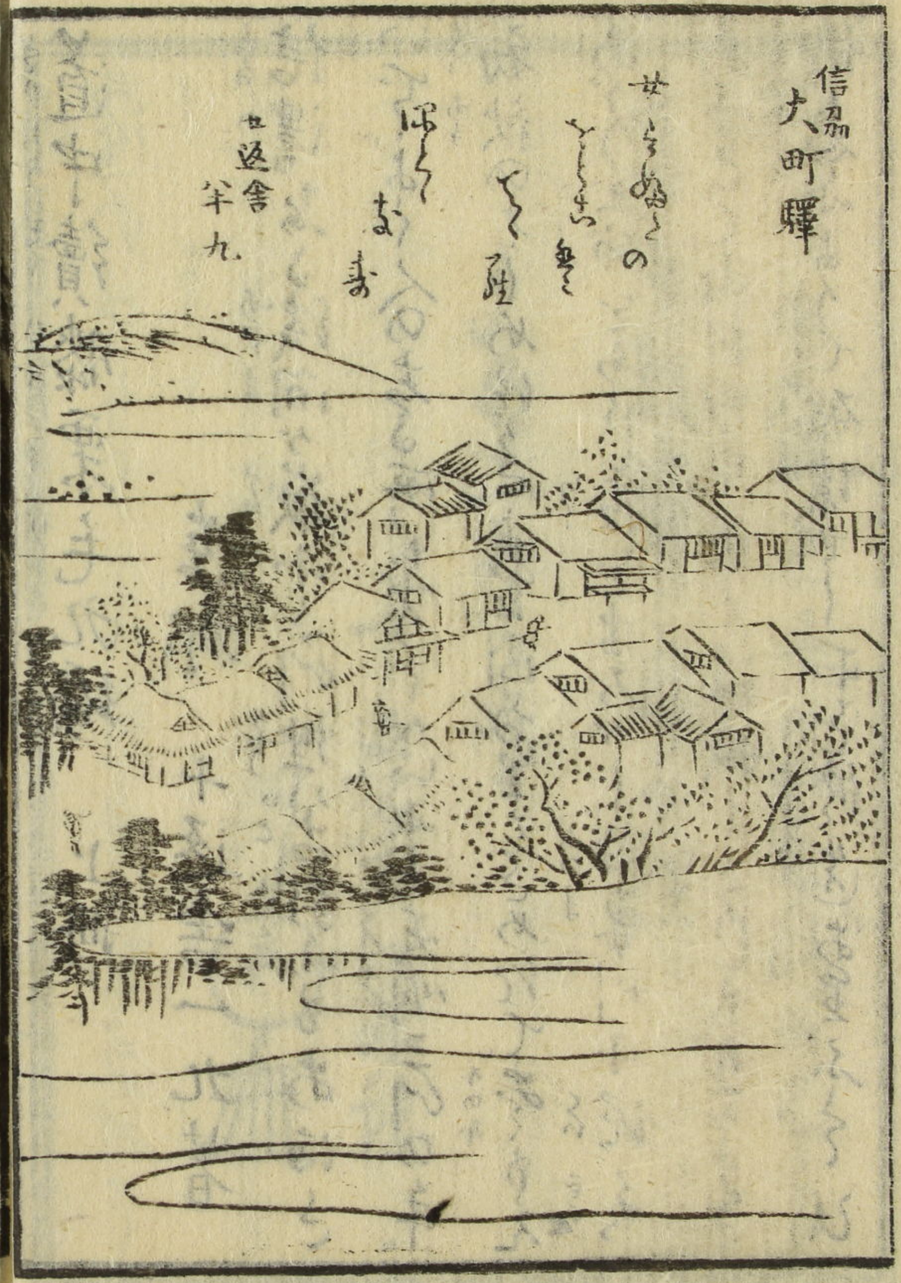
初秋(はつあき)のそよめき立(たち)て来(く)る風(かぜ)

あぐり出(だ)す石(いし)をまろがし吾妻川(あづまがわ)の水泥(みどろ)を

あつまりて山村(やまむら)同市(どうし)の老(おい)くづれ温飩(うどん)

御恵(おめぐみ)ありて破壊(やぶれこわ)れを修(つくろ)ひ

信濃
大町驛



廿五丁
廿四里
廿九

すのかもふかくうしよう。雨乱時と送ぎど。田だこと
東飛おくれき。街ふきまをうくふ。性来の後人
ひきこもきてうぎど。ぶん男の着る麦切 袴のうちなく。後ろ
の嶺石原義の巣のごとき。影をもむき出しむりの後
布ひきうへて書物持当肩がもるとそ。桜そうのほ
十八文ハいうふしてもあさだけるし。されど茶店の程々
の破壁ぞ。茶をとかりせども。馬士大道ゆ
ひるごろも。外う野暮なく。化ものの移等をきうて。

来ちかう糸しるよの中。大金と懐ろて。山の中
を住来ともそも。幸をひろ多久ぶまて旅ちき
所八作文のまふして評論を清春八茶より
前おこて八風呂変づこ。ひくひくのそうやもき。
松午よ重名字ハ道及ときてうる糸魚川街乃
西宝池田の寝小一富し。大所の宿をおる色。さどう
ゆくの村をづとの茶又世あ小之声行 此めん
なせへ トそうとうれそ又ハ 体んでどうせへ又ハとき

かゝさんの夢くまでいそ〳〵あうやまをきやの〳〵きん町
まぢやか ちやう〳〵みやもとも ぜんざろうどと云えもさうへどざ
らせろうの〳〵アイさまさ〳〵トは内そうかふ。そこの世あのつらてお記
きることきゝまうかゝ〳〵おごりの〳〵おごりのかのゆて。
よんゆまう 夢くをぎろうさろひて。台やえもさうへもつて
ちくうこがいとちくうこれりてきこと
こふくふことをうあぎやアるやアるおかくるしん
よかことこれ名えうへまやアどざんだん〳〵十二ちめへと云え
もさまへのかて舳をろのと。舳よりう

多摩牡丹のやうがよりやど美保そふるかのごふ
ちやうのおやぢ 一西国うぐせん台へとやうぐ
ぢやく 仕ふるとぞぶの〳〵ありやさ石をるい街ろへかを立ろさろ
かのごう〳〵。このさ石の沈田という所で。よく学ろさて。
三味線の名手。松尾の芭蕉。栗尾の謡ろへも名情
して。松平へ出かけ。まとて〳〵ぜうのどうぶう〳〵ようく
そぎやアることさろへも。いうて云えうだん。おどもこまやア
イッテミヤカカ 乗ドモコヤウ
ふがんぎうふ。乃神よかしろも。体さまのおうげ。

がこれこんだん（ちゃやの）〳〵と名光寺のめ来さるへのへ。
なおう〳〵。さすハ（ヨヨン）のちこれ仏（かく）さるでも。三国（えんで）伝来（でんらい）と
やうでのぺむう〳〵寺屋（りうや）のお尼（ざいに）さまハ（ムネイ）三日三夜。次の中へおり
うべき（ムシャウ）せさが。そんでも。あんともなうのこいつこえ
ざへのこがてへ仏（ぶく）さるのへ（ぶく）十二め来さるを火ふべ〳〵え
ツリヤ大〳〵。このへろをやく匂（にお）ひがまろうへ（階）そのさ
こそのことふ。こまれふおろして一反味噌漬（ふし）
ておめてうへ（ぬ）ねてうふくめ（ぬ）そふうるれうものを
（ばやち）へアニさんまのひめ〳〵やアごぎえるれ虫匂体（ごろうえ）るれと。
ぐせうとくふくちごの（シヤベル）へ（かう）そぎやアないれ。おどるも
きみことんだん。そまちへ（一由来）の池さるへ（うえ）ぶこえん
ごとうのことんだん（ばら）へそまちへのへ女田（をざ）舎光（よーころ）というふ
こぶことをとろうから女（をな）さるまで（まう）
ぐよ〳〵ふくとおをと法（ほう）ふんが
そん虫でおげさふ（せん）そのでござるげる（談）へ〳〵そのよ

こゝろおくべうござります。八ぐらの
仏さまが。あの中うちをあるいてまゐるのをよく見
つけ。コリヤア雲眼鏡で。虱(しらみ)を見うようまごまし
かゝれ。おいらぶ同(どう)でもさう稼(かせ)らく
あもあごろ〳〵(あごろ〳〵ハ出勿体(でもったい)なこと)をござ言
きうせへそをもちうまさうがいとしせるとやア。
コリヤよいこゝろ。ゆる主をおぶひてあるべきまこと。
おもごゆをおぶひてやろうくいうせへふよひて。

よいこゝろが如来さまをおぶひやうく今の川中
まで入(いり)。おつもとからのてごろげる(ころげる)ハ
きのふの様(やう)な男(おとこ)ご。十二そのうち紙袋(かみぶくろ)。衣(きぬ)の中(なか)でも入(いり)
ぶくとのおうれん。そもてもいゝが。よいこゝろ
よいこゝろをおぶひてやろうも大変(たいへん)ひご。きよ小(こ)ろの
仏さまぶ。そろてあぶさまりのゝとの川おきれこ
きよゆいこゝろ。十(じう)ばかりの子(こ)そ
ヨヤくとらゆまる。これを六

卯ノ下刻
塩沢
牧之
魚谷の
對岸

休所

うをのうろ〳〵ぞん。そまやアこゝらの在があろうん
だん。め来さうみハぼうらやアちゐそふてゝも。あるハ
よのふるう当ろとのふことんでい
除ダイず。
ハナニよろうくあるとく。第程ろ川ちうのめ等
さうも。尻ハちごゝおがめてゐるが。よるもおや日」でも
ざわ
抱てまるとゝそのふとくろことく大なの生際。その
ぎ
てう筆をかふあとごろく。もむう〳〵山中毎がろん云う
ひ
びう大阿の虫他。まゝとく河性ハ叶ひませぬちろうよ川
ごろえ
て西線をむをびこませ。トきくハのまを川ハ。ア二くねを
まろおかるる
まるのざよう白史。ゆよびの家ハ。ア性のふんごゝを
ふまと色てまて。ろうハめ年さ多とふ川てゐるうちやの
川ハ虫勿体ふく。め来さうをふ川てぎうせるうゝ。ゴー
おふまもう〳〵おふんかんもろんとおふうて
世ろ小月で〳〵ニ年ふのやくぶアそのめ来さうアドレ
ごこふ〳〵そふくごこふのん二五ハ。ア二この体の

あてふ（ぎ）へ（ハ）けふ（ぎ）はぺ（ハ）ぜう（メハムし）けさ（ぎ）ゐ（ハ）
ゐてきてうぶ（ぎ）のぺ（ハ）そくでもる（ハ）ぺ（ハ）やくそく（リザく）さる（ハ）
のあぐ（ぎ）ん（ハ）そる（ハ）ー（ハ）あるのぺ（ハ）ぐ（ぎ）る（ハ）つてきいてねてふのへ（ハ）。
このふ（ぎ）てもぺ（ハ）もる（ハ）ー（ハ）てお（ハ）ちく（ラリコツハイ）らうてくふ（ぎ）ゐて
去（カツ）まつこの人（カツ）用（ヨウ）三（ミ）め（ハ）茶（ちや）さる（ハ）のつるべ（ハ）ア（ハ）おろ（ワルイコト）よういふ（ぎ）まい（ベラボウ）ろ
る（ハ）ん（ハ）ぐ（ぎ）ちだん（ハ）ぐ（ぎ）ちさる（ハ）のいふ（ぎ）ろ（ハ）ア（ハ）。ゆをといふ（ぎ）さ（ハ）ゐ
ねろうゐろう私（わたし）へ（ハ）が。あ（ハ）をとへ（ハ）おいろ（ハ）ぐるまつコレ（ハ）なんでお（ハ）
ろふとろ（ハ）ん（ハ）へ（ハ）ふ（ぎ）うけ（カツ）（バカモノ）まん（ハ）ん（ハ）ぢ（ぎ）ろ（ハ）ん（ハ）ぐ（ぎ）ろ（ハ）ー（ハ）

私（わたし）ぺ（ハ）ちが（ぎ）ん（ハ）ぢ（ぎ）ろ（ハ）ん（ハ）ぐ（ぎ）ろ（ハ）ふ（ぎ）くちやア（ハ）かる
いぼうろ。おあをぐ（ぎ）ぜ（ハ）ん（ハ）てもむ（ムヒウ）さ（ハ）くちやア（ハ）ぐ（ぎ）ろ（ハ）ん（ハ）のやア（ハ）。ちうやう
ぐ（ぎ）ろ（ハ）ん（ハ）のぺ（ハ）ぐ（ぎ）ろ（ハ）ん（ハ）あ（ハ）へ（ハ）とへ（ハ）ぺ（ハ）てもぜ（ハ）ん（ハ）ぜ（ハ）んうろ（ハ）ぐ（ぎ）さ（ハ）ゐア（ハ）ゐ
がく（ぎ）ぺ（ハ）とのもへ（ハ）ぺ（ハ）ー（ハ）。ぢ（ぎ）ん（ハ）ぢ（ぎ）ろ（ハ）ん（ハ）ぐ（ぎ）ろ（ハ）ふ（ぎ）くちやア（ハ）かる（ハ）ぐ

かくごがのべ今でありやア。銭(ぜに)のまあんこと〳〵ざい
せん仁銅(にどこ)のそこふ。いく〳〵も銭(ぜに)が。わく〳〵ちつけてあり
かのと。ざ引て来ても。ぶまち〳〵うんぐふ。こんる銭(ぜに)
おーれとこアがごんーるんの人(かつ)へおごりのいそぎやアるて
ねろくんうだん。そこふぶちあやてあり(のこう)と銭(ぜに)をア。
ころがんごろーて。かてきこと〳〵ア〳〵いま食(てあい)へ
おいーぶ仏(ぶち)をころくの引ざこの〳〵ア〳〵ぜ銭(ぜに)をこちやアがいて
そのざるくんぐ引ちが。犬それこいけ

温人(ぬもびと)め。よと引赦(ゆる)をとそうこべ〳〵てやろうト主(あるじ)これべやつ
くよも〳〵ちこふうけろろーが(バカヲイフナ)
つきこそすべひよろくーてあきのおかつ
うあつひろうろ引ふこけてあきあがり〳〵ア
ろとこだきこふ。出(だ)りのが出(だ)ておりて
ぎうむいこ。血(ち)が出る。アいこく(小八)
とん。仰(ぎょう)のとこで(隙)ア西国(さいこく)で(十三)ろとこだきこと入出(だ)りの
かく。その(禅)(ぜんだら)のとそうぐ
いふとごろく。そ主(あるじ)をとうむいこのうア多(まるくろく)〳〵ちせ人。

ドレくそんなまねをやろうぢしろとむきうえ
大ごとぶんぞーのむとびめあろうとをこだささとうふ
どろうの汁(かつ)をそぎやァるこことやるからだ。コレをこださ
みとのべ。そくくトのどのトとをしてろう
居(ゐ)ろる。ぶんぞーを去(さ)めろうと紀頭(あご)でまきむぢろ。それで
乃(の)こだそそ。ツリヤきこくぐ。きこ八サア出(だ)ろけやろう
ー大ごろひとーつてその着(き)ものをもらいたいものだとて
みおろしも流(ながし)より火(ひ)そもを人ぐ移(うつ)

佛(ほとけ)さのむ(ママ)
そをとよ里(さと)とをまるこゆくしまる餓(うえ)ぢでこそあを
禪(ぜん)を一(ひと)ぬ里(さと)しまる少(すこ)しゆくしまる餓(うえ)ぢ女(をんな)のまるれば
俗(ぞく)な多(おほ)八
かくて雨(あめ)へ降(ふ)ふりてあるれば酒屋(さかや)のかぐふ
くそぞこて一盃(いっぱい)呑(の)でいうふ八(や)をまく
こそもこの多(おほ)ぢやァいうまこめ人(ひと)ト(さうやへまちろ。三重(さんぢう)紀人(きのくにびと)をうりとこ本阿(ほんあ)のそそるるうさ
ニコリヤア良(ぞん)ふまちやアごろ人(ひと)いうの世(よ)ろ。新町(しんまち)ろ〜てう

ゆき
ふる
ふる
ふる
ゆき
ふる
ふる
ふる
ゆき
ふる
ふる
ふる

ごりこりいかてかまぐ。酒までうてごぐりの女
馬
浅
ぐそまでもよかろうぐりこと八ぐりめくのう私へう〳〵イヤてうぐう
こりあアそのとんごの人今夜まで。だきうぐうひ
うとぐ。山猪よの女てまこぐそのくことをつけて
かてかまぐことのやぐーでひうのりてごぐりの女
小八 ヨリキニうぐ美井ぶかまうう。奇妙く〳〵トうてるのぐズうのる
浅
うりかまぐそんるう多のやむうちぐまやろうのんでぶ
ざうの女ぺぐその酒いかんよるれさけぐのくう〳〵さうめれ
大

なまふがある。赤鰯ままぐろのをき、卅ぐ。このへあや
まうこのところ汁ぐの〳〵茶井と鰯の者ぐこのもごうり
まるぐ〳〵小八イヤそのりもぐんぐ浅男ぐ〳〵そんぐぐそでも
上ケまぜう〳〵トひやざけをやうかるごのゆぐのをかてぐる〳〵ヤアぐまこれ。猪雪う
ぐんぐりのとぐんせう〳〵イヤぐんぐのおやアおぐぐうまい。
まんぐりのでごぐるの人〳〵浅ぐ物あーろう。小八これ中りてんろ
トひやうけのんでんぐところが浅ぐとうぐ〳〵ぐ
ぐうぐ出ん〳〵のひてんおやまる。コレ馬ぐまぐのきうぐぐみぐ。

のま祝入うまれ。もそ〳〵くのこえうこぶいくうる。
あいくまうそがい トつんでやぶ。うまいうろてのくうひろれうまれコリヤ
そおくひきうれべべ〳〵のうそ〳〵コリヤ
がいうるん祝ぶ。ごそー。そもあへ所汁のまいみさ祝で
ヤハラカ
なあけやあ。むべきうるんうまコノおちんへろんくふー
あくキヨイカゲン
うるんうまれ〳〵ごそーきそぐぶ。よんがもあ。ざいうけの
ぐま
話屋七がそこで。ぢいきみの多参ろぐみて。ごー
ゆんきまんズ
ひとぐうまそいろこがの人。百五通がお多ろ〳〵あ。新五通
きう
ぐぐ さいゆく
重内西会だあおぐっコリヤ持うまをかのしやアのめるい
うまれ
くまうまて。時くうまうまとそんぬ出て。そふ姑のぐ小参で
ゆうくうこぐ。ごそー。がうまうひきうまそれうまぐん。
大
うふも新いうこ。てうぐ小とう百み十ほうひきまと。ある
テウド ムスイ スル
うんがうん。つぐやちゃぐのへ。〳〵 涙コレ
カハイヤ 苦
きうまだうおかーろうまふぐ。この酒へおい〳〵出のめ
きう
るいうこ。うまあうきそ。きさまうまうまてきまいう世人
うまドざ
引〳〵コリヤ仕送ぐのへ。辞笑ドぐ
ドぐそうさ
アくろいきうまうまうまるいぐ小世人すと。
さうや

かゝさんの
うねまえしよと
さん旅は
初ん
よめそ
めそ
ゴチ
長岡
監造
ぬゝくら
くらいまを
るのゝ
ましいまの
山もの
尾の
永九日の
旅
ゴチ
本板
知里田九

おそろこのうえ　ぜん　年もおぢんがもおぢゃ。まことろひとふれてごとこふう狩ふさりてくるのごろ　コレくさまさるもち狩ふ入このるお士がそこくるおそくまんくそふいりてぐ女人むこうの士へ〳〵歩行をめのぺろひごとろくごこでも捨ひごとろいぺ狩ふまるがくせで。今ぎろへ。ぎろうくく。鼠をかいてくるごろうぺくおこくそもぺニぎろへ。おきろそんぎゃァごきんくろの　コリ年の女人へ〳〵ろんおまふのくつ女人さそんでも

のりかのもごゃ。ろごろうかくもつくくまく。まりて　おぢごく女人まり〳〵〳〵トおろうろ士ふりてこの　コリゃァ年ごとまくくろ狩ぺまご旅賃六ゆろおどご。夜まで余てまさを波ふくぺりかおさていとうぎゃァ狩人ろ　コレくぺ止まること高生めいくそふいてそ多だりくろつてぬやァがろ。かふありべの。きこ八吉りろくそぬろ人おまぢさ乞人おろぞトろき

ちっせえくせに（陰）まんこがあるとぴくぴくうごくだでそれもちっこのやつでっぷりかくうごろうコリャつまらねえぺらぼうあるいちごだよおまるのさんざんがありそうなものだまんこがあるかとおもってまたぺらぼうだまんこがあるばかりでさえぴくくうごくあめだそうだよおまえをまるとおまえがうごくをまるでおまえがとまるとでもおもっているのだばかやろうめ（陰）待てくれくあ

（陰）まんこがあるとぴくぴくうごくだでそれもちっこのやつでっぷりかくうごろうコリャつまらねえぺらぼうあるいちごだよおまるのさんざんがありそうなものだまんこがあるかとおもってまたぺらぼうだまんこがあるばかりでさえぴくくうごくあめだそうだよおまえをまるとおまえがうごくをまるでおまえがとまるとでもおもっているのだばかやろうめ（陰）待てくれくあ

（ヨリヤいつてとゞがある。おめくその枝よこゝうまれてこゞ
なる女人おらくこゝこの名ごよ。つうまれてゐるう〳〵とろう
い。そんなうめくそく女人名ゞ。ソリヤいつう雛ぞく
トまごその名ごよ。女まをうけてこゞ
名ろきうもあそ。ぢうう。ごうう。おちるもづくまきと八のゝうる。や
ぢうくうるのくるくのろうへまろく。ゆ八まろさうるは。ゆ八アイタ〳〵
あま。本の名ごよ。ゆやらみろごと。とうそて〳〵アイタ〳〵
（ヨリヤ書こもいてへ〳〵ゆ八ひざんコリヤひざんめふあへせさ
（ヨリヤかみおまもむうみをるとこる名よまうとろそ。ア
ゆうはくくコリまこゝこのてひうさて〳〵ほ。おきう〳〵ほ

（ヨリヤ名のあいさく〳〵トうをまあさきあぐるとゐるじくゆ八ひざをうて
（ヨリヤるのろうとゆ八いめくまへやよ
（ヨリヤめうそくへ〳〵ゆ八ありてくこのうちよふがあるりめざ。ろぐざ
て。ホろふくいとのちの名雛ざ〳〵ゆ八このごうちくまうめ
よくおいうこおのこまやアがのざうぬおる〳〵て名う
（ヨリヤうほ〳〵十三るうおぐてめうめぐ。うのちめうてお。そ、
サアくいこう。おいこくトうそうのうのとこのこころをうちをぐるこそ
二ウ（ヨリヤうそうじんふ。のうーぐいうるれべ

右申さく三ぐりうしおちてくるしき
そもようの次第よ。血走あがりて。山乞ふさ
き叫び。人家級てるく。殊更大町の宿より
又里の場末なれども。田舎ざくし。又るの
里あまりの在生業のあいご。日ハくれてゆくされい
陽入頃より金粉の痛をこらえていそがやくれど。山
まで遥られど。兵の痛ハいやく。ふくなりてもの凄まじく。牧所まで今一里ばして

宿沢といふあうみて。日暮れ人家味悪く。
ふくる事夜るれど。兵体悪く。
いよくつまり。ハぐ。きさ八ぐ。ハイヤ。
もうまでくりもぐあきれ。ぐ。
うもぐぐくまるやうし。
とんる歩でうくまるとき。あるつけ。ち本を
やうハイト大きな譯でぐ。ぐんぞうる。人ハイヤ
おいくアハもとくの人ぐ。ぐせうかうぐがとく

香山

あけぼの

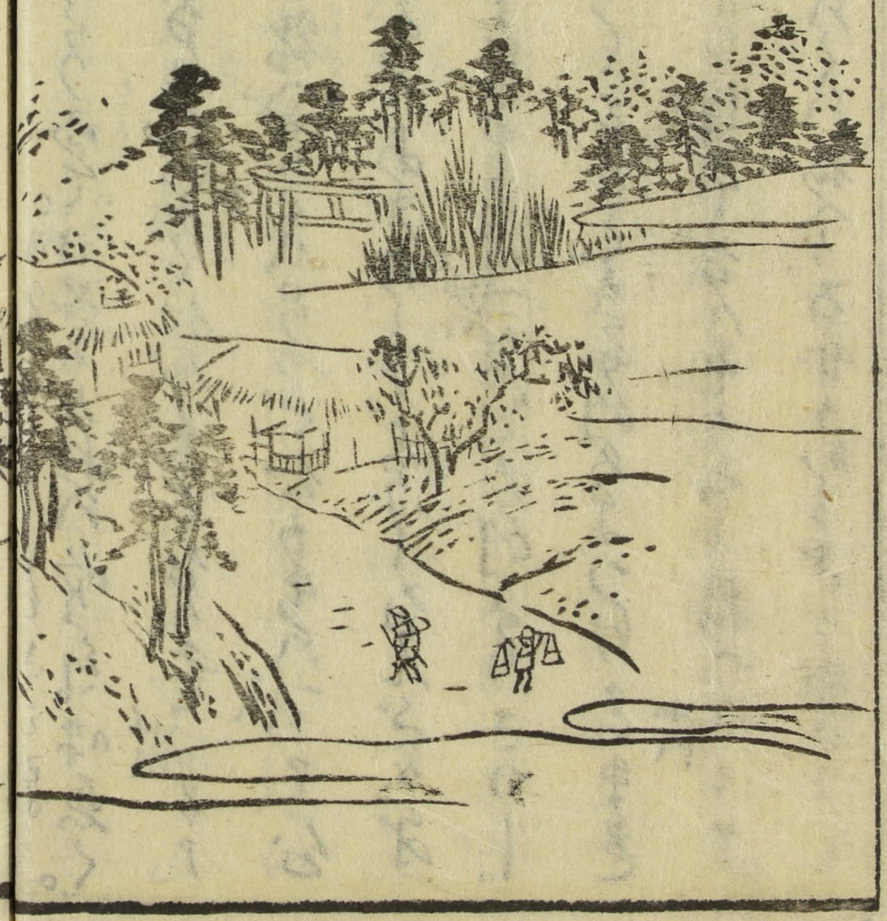
旅ハ

名さん

ゆふみの

鳥の声

風の



ろへてゆも出ぬ人（張）にまのよな男ぞ。いとく（疾く）
ざらおーへ（入）らひ（引）はれ（れ）とこのやうりのぶ。
まゐ（参）くこゝろみも（申）ぞ（ず）首へ（入）ゆ（ゆ）ひつて（て）ゐて（て）ゐんぞ。
なゐんざろう　トよくゐれば（ば）あ（あ）
らいの人のおのうぐらを。あしおりゐやぞろく（うきぎ）あ（あ）
りくまし（ま）ひつきて。おやまものうれば（ば）（張）
ろうのおーりくもぎゐつくとゐて
ぎへ。（ゐ）つり。めづらしい（ゐ）ちやうよ行をつぶさせやアがれ（ゐ）と。
（張）ぶちところーてやろう　トふろを（一尺の名）ひろひてあろうべ（張）ゐ
とのりろていのて（やと）宿で（ゐ）葬（ゐ）てりろよ　トうきぎを去在

おてぶこゝろぐてりまゝぐりゆて
あろひろろーてまろーこれろこゝろ（ゐ）ろかぶ（ゐ）男（ゐ）ろれぶ
ちろ和ちろの人（ゐ）ヤ筋のりのでおざろうやと。まり（ゐ）
ぴっ也めくゐ世へ（男）とろぶ（ゐ）ちまいと。この夜をあぶ（張）
んろいぶこへ也ざろせる（ゐ）ま（ゐ）町までまろうやと。
まぐよの川ぶぐありやをとう猟（男）この峠（こうげ）ととと。
新所ぶろの人まぶ。なろうまろのう人もあろうぶ
山の猿（おれろ）が出ぶ。ろーてゐ（ゐ）ろ（ゐ）也（火）十二升
おろろぶが出ろとぶ。おあ人のかりでねろへ。

ぞうふ孫とうの夫まで男
ひろめ魂のみれひで。おもわふも出まてうらいうっ気
と義まよおもりてぞうせ人張十二月もうァおびく
がもうてようふ帯とえる山道とあるくもの久
張でも絵へでも。歩くうれのまけ。ソヤりふ年
あ〜ぞァ越がまづ〜すへふ〜てみせやせう。月
ちハ夜夜がをけで。ごんふ山でも歩そうでも。お
ろけやせそぶとまで追剥ぞもふ歩まてう。

何度あり〜とう志ま平やせん。そ人ふ千ふ百人手
てもう。ちがこの枝まそ平で。こんふそきもし
て。志ますくうんぶそうう。そんうちゃ。ふらいの
一平まくいう。もちのそきー出ろうふまでつよいとそうふ。
この出ちふさ男。かァやうものあてかん人
ふやくうぶのでまんことぶそうふ。
さうふ。がふよ張をとくぜ〜せろ。ぞ〜ぞりのへ
手中夜山ぞろう出。
〜うのとァ志ま白いか。そのうちう白けあるへ。

雑俳

のろまさん
鴛の
泥をやろ
よーこ舟の
洋をきゝや
うきた旅

江戸
出雲崎
八水十庵

ろ〳〵ごそ〳〵ふりこぼして
おやごへちくれんと仕まんでよ。
こりよこをこうへきんこいこ
いこそふこりて。ぶこをぐりよ
ぢうぐやア移人。よう荷を廿ろ麦をこひあげして。
ごぶの中へおりこともいひる足〳〵人のこと
いよまめへげ。本曽の沐生のこ
ふこるこりて。ぴこをぐりしろ。銭をやろ移人しやア

移人うへをよろう。おめ人沐馬の連切でよんごをと
めこんでこりこをこれ。おろも消炭の火がよんごよ
こりにおてめて。ろをやけどしこと。おぐがある
ごろう〳〵ねが玄性房のりてあうこのを。隊の
かびこのごおりて。めこんでやそうやアが何て
新ぢろと。庄ごけふしこと。いいおろまかく
あるこを入こ本縄の火が。今のまか。あイ谷
でういやるりこの人トうあの況てなんぐ今うまでこごこ
ういやるりこの人トうあの況てなんぐ今うまでこごこ

さぶのこらまろどのおとろう。うぜもうれよ。ホのうぢさへくくくるる。
おとーてかの　ととぐいるれがごくくくもひくちぐこころろてがくくくうひ
（仮）
（ハア）　ろんまくぐふりくく。（振）るるらぐくく。（下）お岩殿
でざぐうまと。ぞのぞ（命）いのちハ。おこととけるさんてらぐ
さうまぜト　まえをとろくるこぐをこぐして。移（うつ）ぶろをとるべきホ
いきこころちハるくのれるくそかるる時（とき）べがくのをまるぐき
もをきまぐよおくもぐ。ろへいちぐふさるろらそうるが（行人）
ねるよろう。あー。おろるるおくせーふ（ぢ）ぢ（行人）ハ（ハ）ろくのるる（男）ありー
がろん。コレちるハをおくくるいくさ（ん）ぐ。（きく）
（振）（ハ）レくまぐのありぐてぺイヤりぶさうんるる好（すき）をうぜ。
さくろん新（ハ）（ハア）ちりくらまをつろさ。ホンニおそろくく

かりぐ。コレくろりちが（行）（振）とろくるせく（振）おらろも大
あせとろぐ。りふくろ天狗（てんぐ）さろハころをてさ。ア
がつろうくて。あるくちろくるも移（うつ）べろまるつろ（行人）ニア
いのちびろひぐ。ま（ま）くこのお声（こえ）志るがこくるめまへ
そくめてあくこのくま（振）（行人）べめでろん。ザ（ざ）くやくいくろ
（そうげ）りふ峠をこーくろ。あまるもあくとくるいーのくろ
ぬてやくてそうげふぢつろうきとうまふるるホ正
まろんろうくくろのぐ。ろろ（おちつ）きろるま
かて（まるこ）眠るくろはぎる。

者の戯ぶるゝ山中よりも猶ほ
もなく。物落でも百く。食あり
泥の宿をとりて。野ぢ雉子
物所の狩ふつ死。たゞめてゐる
たゞく者をとりて体をせ

三よの女房モ皆ちやア。若旦那へめくうりのでお
さうやまとうござよで今夜ア。おこのくアた人のやどやのアイ
高人気ぢやがのこと多くせんで。せどかろうぢやちひさう
たろうる。ござつてござくアまし。し姉あんせる
みうんでこいちやアトは内男。うちのみあとわちまアく。ふうへ
きべあんるいまる〳〵ふうのまる内ぶぜ〳〵そ主でもアんやと
座さる。ござ。表ろくしてあるうう。大ろうひぎやア狩人う
のうお人ふ来のうこと狩人ふ内やどやのアイ
まくでおざうまをあるもまや、あぐうりのハござん
るいうるつくとござんてくござうまし。コレハ
おめ人ふ来るうちやを。時ふり。
お座敷もつが。この掛地ハアござ狩。コリヤアぶれが
画でござうやを。いつ。ア。ふ人め狩のふしがかまこまし
そそとこいつが。るぜこの画へさうさるよりめてねやを

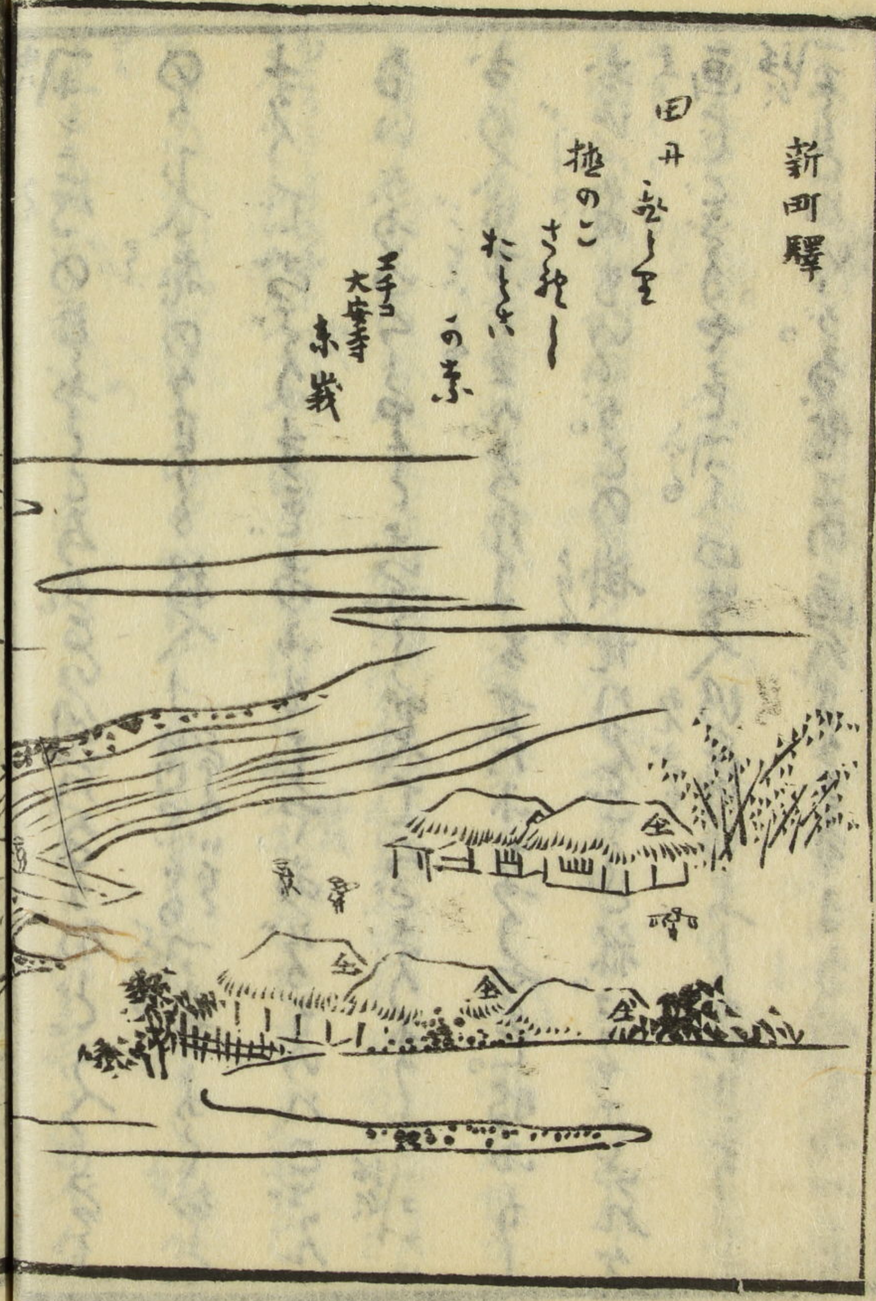
新町驛

田丹
歌よし
抱のこ
さくら
おしろい
この末

二手ゟ
大安寺
赤戒

詳ゟ
赤森
ゟ
ゟ
ゟ

ゟ
ゟ
ゟ



（柳）ヤアおまこがねんさうでござんせう。上う〳〵柳の枝で
ぶう〳〵さがりてあるの（十三ヲ五ツ柳のそごじやア）稲人
（おー）芦のまんてねうのごうに。上う〳〵芦がまん中ちやア。イントコ
（ちやうと）挽木みやア。（一ちやん）茅ノ下がさうまるいてねやまを刈ア
（ひやうぐ）そよろのぐ〳〵（ひやうぐ）を細工よう書るく〳〵（ひやうぐ）こがそんとに
（うーと）ごみも上下（ひやうぐ）むが書まいでをかのまんがぼろ人
（ゑ）よりてゴリヤア（ゑ）とあるい画ざ。ことが上でおろうイヤア

かう書うがねんさうう。ごみもむだ上てとろうまある
のでござまるがよかろうと（ひやうぐ）海苔ぎをとてゴリヤア柳の
ぶうぶう〳〵（ふう）さがりてねうう〳〵。ことでござく〳〵（ふう）そが（ふう）
いつせうふよりて。ヨーそんそうふ。ある〳〵（ふう）この人
（コリヤア）ばくちもるんそんざ。今は（ひぜん）猪を出し（ひぜん）海
まふトちうのそ（ひぜん）ろてゆく（ひぜん）一ぴき人よりて。ことござんそうであ
ろうと。きんうところがやりてあいたうさう。ことでお
かいやうまう。とてもござんせう人

ろくろんちきろくろ。出をとぐろろ。ト式円十四文のやろうがぜんをかろ出やろうく
まくるくひろのくりやとそろまくこ焼数おやまるうく
陸てこの汁の実ハろんぐろう。ぶきくとかくく
てくろまこ孫くりやア蔵のろうくのふのくろうく
びもこいの。根のくろいぶだろうぐやろうこのふハ
うちでくひまさアくりやア有うぐへくことろ
だろうと。ちょくろせろのぐろるくそれでもぶ牡ふ。米
のめーとくハせるが。かつけもの

おきやくさろでろけアまやア。ごめんくと
ろハトだろうきょうろのろもおうくハ内ふろうハだだくおきやくろ
かめーとろろハ世人ろう湯人まくせ人ますくティもぐ
ふいまやせう。風呂切ハごろこの陸よをあけて。
おぐろ出へ。ちいハそこぐアのくくりや承知くく。注次さん
さろくそうやをトうーろのおけふもこんぐろくいづると。
ハよくく。ろそこくくりやおきやくさろ。ぶがろくくいごさん

ござるそかしてござるせんぎ湯がござるの（ハイヤ
かよかしかござるやござる（トおふろをろてかしひんまつみと
ふんどしをおどのまそあひびん（湯
ござるかがいまきろうて（湯
湯であしかござるそのろうおの湯でふんどしをあろうて
きん（湯
きん。此あらござろう。金王（きんおう）のあぶらで。猫ざういてきみが
（湯
ござるろうろう。ござるくさいあひのまろ
うろうろう。ござるくと。おかしもいも骨を折て。あろうと
うろうろうちぐつろう（トおひびんをとりてあろ
うろうろうちぐつろう（トおひびんをとりてござるもの。
つぎのまかをござるしてござるくくして（ハイ（後人
ござるござるござる

高田
高橋舎

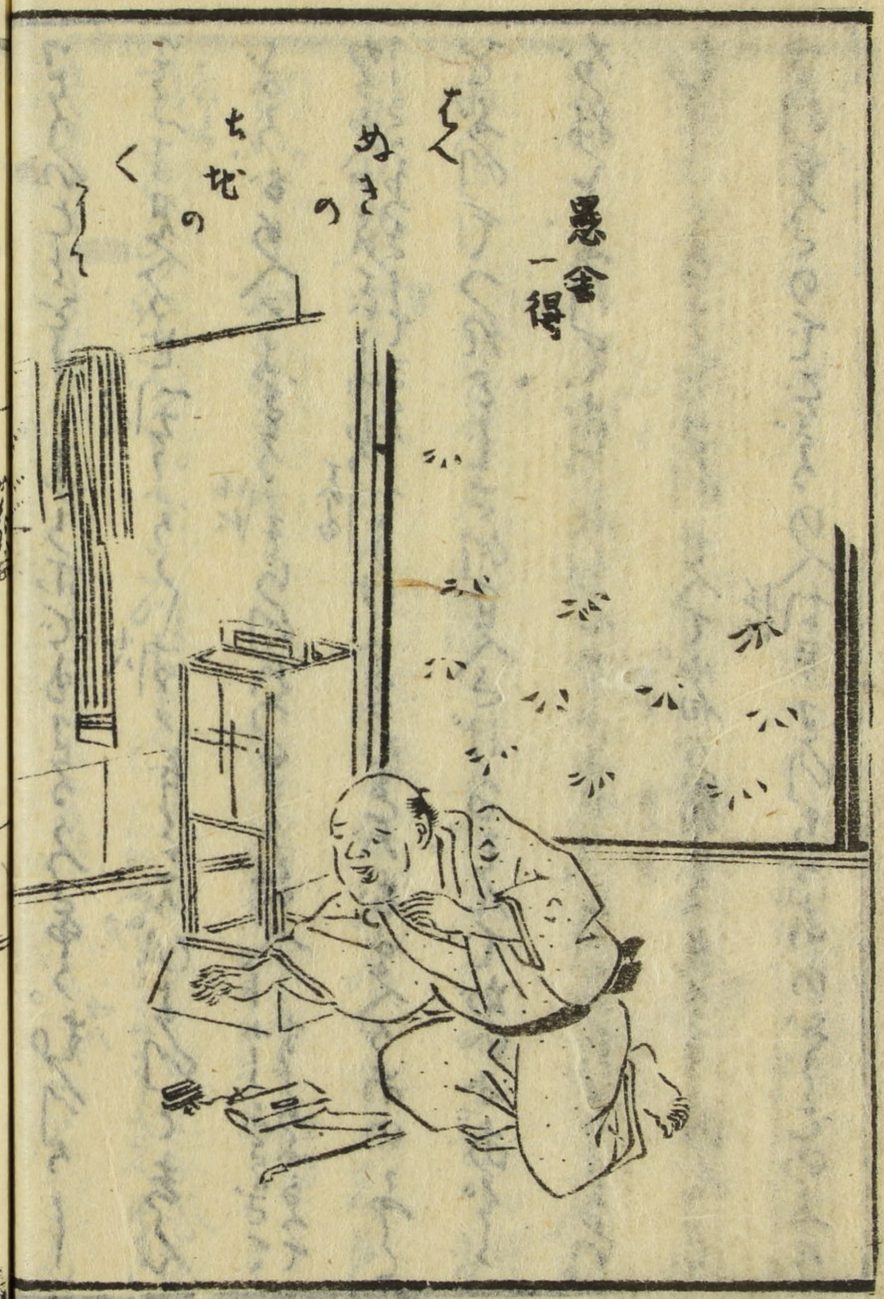
今
東流庵

上方 ヲイヤあちこちおかうこそ人もの
ゆごのうけざる人おうけるされてあるて。そして湯
うおあがりるされておあしひるされであろぞい
る 隙 ヲイそふさ〳〵そまでる遠てこのぶやこのうこそ
おるこでこよう。男しさる人ゆふうまーさるふん
ぞーとそふしそうけざる人うけておぬしおぞうまるま
るとおくさうのいん情おもい出〳〵そゆどのくとうま
わてえこう。おるどやこる

あうこそう。コリーのうこおりのてヲとやそやふん
るいコリヤぞーこうんおやとおりのてこやそやふん
おるのぶコリーのふイぞーこそでこぎり出ことこるおお
うこあるこぶかけこそうちぐべて。ヨーのを
おあーいるされこのであろぞうヲ 小八 ーーコリヤそふて
あうゆまうおあくのをこのくぐであーの
このこぶこうのあうーいーー 隙 ーだろをうる。ナニまち
げくうかめうアリヨアおまぶのぶのぶイヤーあうぐふてる

あうんとゐちやう。ヨーがのこぐあうう。ふんごーのちーふ。紺(ちん)の海(かい)の多(た)で二(に)の字(じ)がわりて あうコレラさん。こをごうとこーごやうこいう。そーて まぐあうこう。ヨー尻(ちり)よ。多(た)くの根(ぶと)をぐでけてあうさう。 ちんごーふ名(な)ちう。拵(うこ)ぐつのてぬこぶや(ぶん)あうう。ヨーうんごう ごう世(よ)ふう。まうこりのぐ(うん)ついてぬこう。その皮(かわ)の むけうかごひとをりてあうう(ちう)こいう。ヨー のふ。ちごひいうこいうう。トふんごーとうてひうげてをれべうる かぐもちの汚ふこんのことあて二のごの ちうーあるゆ。これまて弥(や)ーぐうとうるいのれをでをこそ(ぶん)ーイヤうんはーろ これそもひうう。ヨーこいう。

こりもちもの。柿(かき)をあうてあうこう。ヨーごーでもう。ごうこうるう。こくきうのふん ごーでもう。ごうこうるう。こくきうのふん ごーでもう。ごうこうるう。こくきうのふん


愚金一得
ぬきの
ちゝの
く

あ
さ
ま
祖の
話の
い

ごぜーをつれ ちがのごくかり
とで。ござうちのうんごぜーをつ
ゆのうのこぬうーやアがれ
まへんかぞいく。あうちのふん
おまへの舞おごのへそをよこ
せてア。ちと舞やアごぜんしる
ちのふんごーへ。あうてかう
ごんぞいやうまーそうんぜ
ぬ。おとのさやとト

一扎々車

一そく飛を家遠き法花寺

家ふく猿をも木後法花寺

十銭其上突倒し市怪家殺さ世ぬ

五指に余ル術を知ル事なし

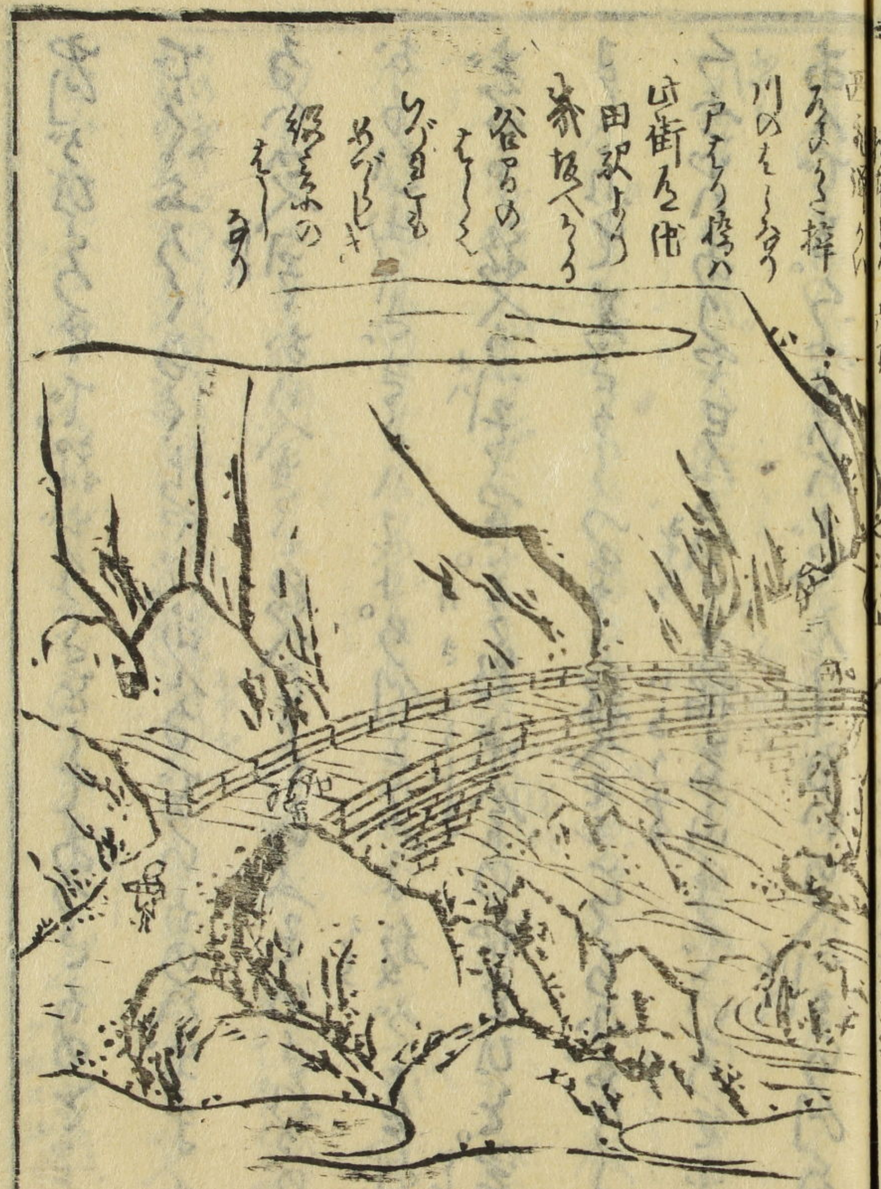
おもしろいのやぢやうきづこうろうろうろうてかとおのやうるがコリヤがいよ。異るおひようきづこうろうろうろうてもしめ人めしろハふるつこのへそうさ。ろうそくこ人ごぜうちやアアイの舌先幸へこゝ出ごぜのへアノ紅戸神田の千ばうのお名ぐんろうへお名ぐんろうへ若んとさ。やくくおろぐ人りのそいこうのへアあんとうつこと。ぜ。し盛町ふうくの不。芸盛のおうことふ。コーぬくうのへやなやてうくうの新へ着盛町のそうへそうぐ。おんでもろうろ。やねのふのてあることぐと

おもしろいのへまあことうとうやねのふのて後へおがごてよおうかめぐコーおろぐでむぐとめろのさアまの曲をろうだろうお名ぐおやアろん。お名ぐおやアろん。のまぐもろうぐうだろ十二号の曲をうるうめうそんでも。まの名であるこへ。のまぐを見ることぐうおこへ。ここへ。ねのまぐでもろうぐうとこーおうことへのへ十二号のかんぐんとうへ。大うこ号食盛の着板

のとくごろう（まつご）あ。アノ江戸あくやう（しやう）のそうの
あつこのへつりやあゆを売るのごく。さく〳〵（のぞ）ひ
てそこく。あるぎのとくとく。お名ぐ（ぐま）やア。名ぐまへと
いふのへ（小八）そあさ。顕（うるさ）へ江戸のまへでこのがらく
くうそそ名ぐ。名ぐまおくらのやを（まつご）ものうしろぐやア
こ名ぐまへ（小八）ろいう〳〵十二名ぐのうしろくいふがあるかのろ
へ（注文）イやうしろとこる所がある。落所（ようてく）ところでうし
あとこうやを（あつご）〳〵やア。あふたをろの人（注文）うまとる。若（ころ）
ともの名ぐ（あつご）の村まやア。（しまつめ）娘の縞（注文）くいふがあるが。
こうしものの名ぐア。とまでも（注文）ぐの人（注文）めんごう。尻（まろ）のそこ
ア（まち）ノお名ぐ（よつ）名ぐアア。ふのふろのくいふがあせがう
ふ。ここの大屋ごのく。けりのあるアせがいとく
とぐらのふく。雪降（ろうそ）いりせんさ（あく）久
名ぐまへいりてんこぶのへ（糸）ひつのあるア。せでうアお
ざんろいとしぐりの国のぼ（ぎ）大根のやうでい

▲善光寺
雑魚橋由来 六冊

当国二ツ
ひとつ
一ツ
ひとつ
雑魚
橋
戸張
この内
雑魚橋



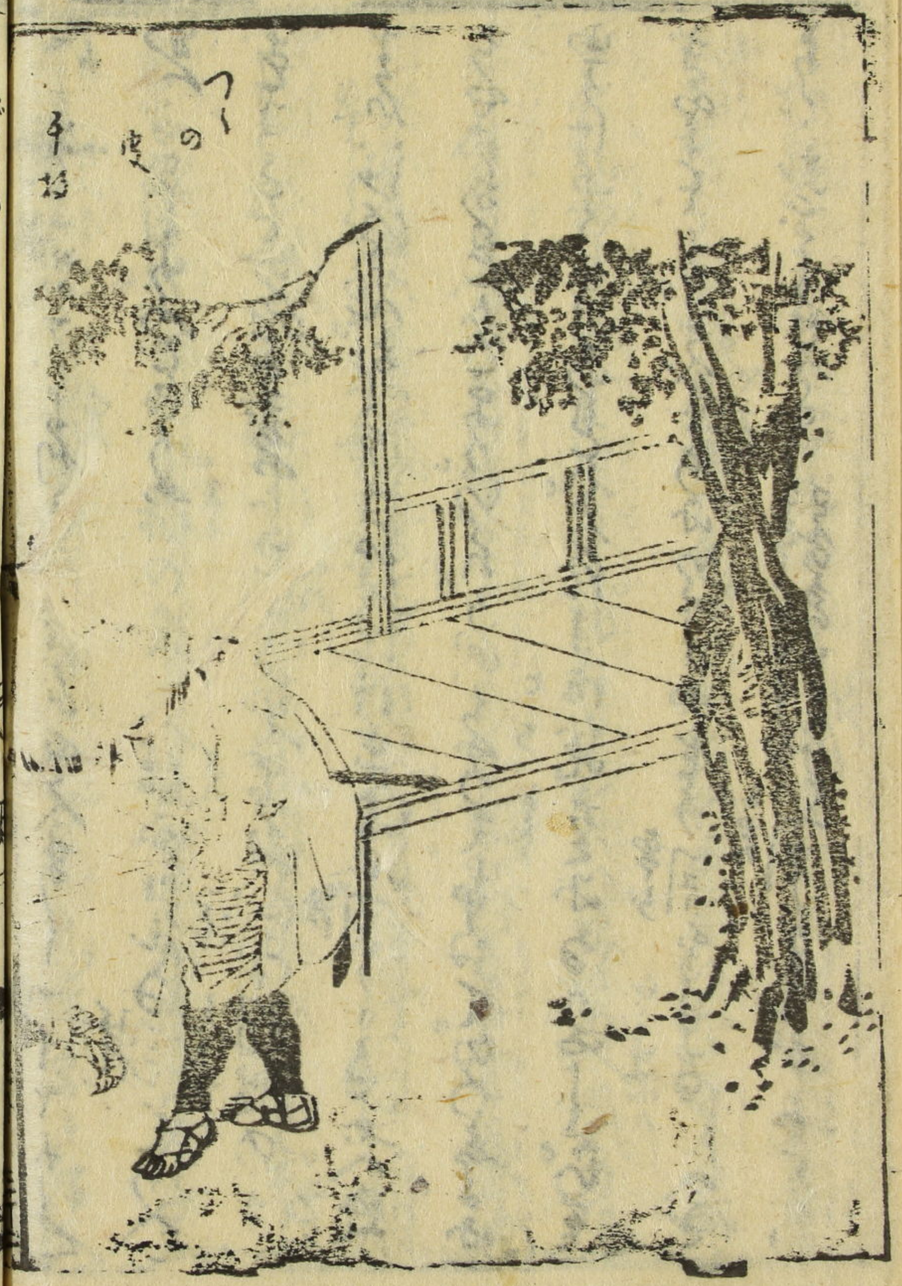
西条
ふるさと
川のそこ
戸ばり橋ハ
此街道
田沢より
善坂へ
谷ふかく
ひびきも
絶ずとぶ
ふねの
もよう

ゐ何がひろまで。ゐ彼ぢうまでことをしてあるこゐのとぢゃコレ
でうくふろくうくちやア。あゐるでい力の人出まし
るいの人(衆)でおゐくきてゐ彼人とをこいふそのこゐるのでし
おかひ出(だ)ざきてハナントめ(ゐ)ゐ何とそよ彼(ゐ)が(ゐ)ゐ何と
ぢやア彼人う(ぶ)そゐまでこゐ(ゐ)ゐ何中合(ちうあひ)のむをびを家人
ゐとをゐて(ゐ)まこうつまう彼(ゐ)ゐ何もとてらふ。ゐそうう
くよゐあゐやゐんう何(ゐ)ゐ何(いるう)者(もの)稲荷山までいろ(ゐ)ゐ何ゐやア
あんでもくよかのハおぢんうゐの人(衆)ゐ何ゐ何ゐ何ゐ何と

まゐこかのぢゐるゐくきてくゐ何(ゐ)ゐ何(ゐ)ゐ何(ゐ)

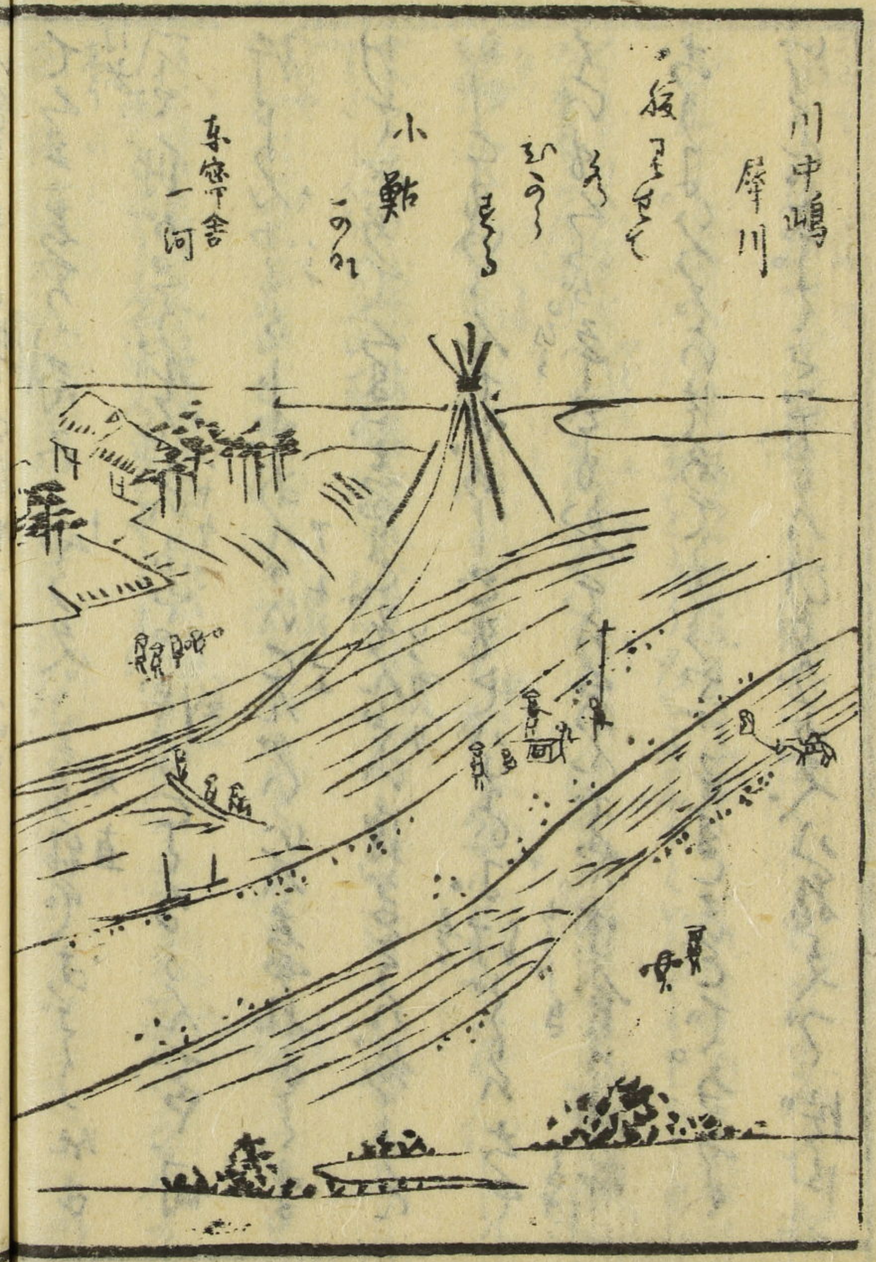
るつこのぺかぺかしてちやア。そこへ人うけさうな男せんにんもやア（ちやア）
ござりまするがこのあたりをうろうろしてゐるうちのおばさまを
よう〳〵せんにんおやぢ（おやぢ）の人〳〵おりまするがお互ごとにやく〳〵いつさ
ふむだいうるいやつざ。（きさまぬん）（まめぜよ）
芋の葉をかぶせてこさいとぐざりまするがこれ（ムダバカリ）（シヤベル）
の人〳〵（なだ）吉右田のちざ人むざのぺかぺかするがちん（せん）
ぢやら〳〵。酒をおこさうとうるさいやつざ。（うるさ）
でお人ないとえんざのおやぢ（おやぢ）の人〳〵（なだ）ざりまけのよこかのめくも。（ドウカラク）

きんぢやう（昨日）芋のおつ（掘）をのろ〳〵ほりつけそうしてよる。
ぢやんだいさうぢやア。ごん（シホカライ）（牛蒡）
でうしてふあそこをしていけるとうえんざの人〳〵（隣）
ちやア〳〵そのまで男ひつけて。
おかしのやうな人のおとこをふづ〳〵ぢやア。だいあど
の。これこの吉右衛門。（えもん）毎日〳〵（まいにち）
でるでるまんぜてくさう女人ちやア〳〵（おんなし）その妻で男ひつけて。
おれざるうせてこの人〳〵（おんなし）ぢやア。西洋のこと（あれ）



とんでもござりまする。コリヤとても
移人　ト申そこでわたくしのほうでのほうへ
きんのまちくまちくまちく

ハイ屋敷屋敷まわりをぞくりとお
さんしゝ神へ〳〵とこのくみをきく
てくらおことをのまちがひまわりおもとをあづけてさぎんし神へ。招
る猫金もちでおざりまうさうでおざりまうさう
やとやとやとや



ゆうさんよりくるくるこゝろをこめてくるまれ。アなんぢやらいふそ
ごもそこ行へいて神へ。よんふようさるいてわるのぢ
おやそんぢう而ふうづでこのせいノトよへかひ
そうぢんがで外てこゝろくゆうをこゝろかわそんりのそる。
ふうとまきふもそうしまづくるるどをあづけてきんけいー

まん猿の若少光寺してみそうや
三ツ生隣ら来ものもかんだくる
柳ら若やんる妙まま三國傳すの実ふて。皇祖天
宝そう手二の内弱ま

の結婚。若者をつくしてらよだろうるし。お爺さん
お田よーこりを養中る孫をかへてぐれ
よーこりを養中る孫をかへてぐれ
おぶいかて行波人
かくて境内の佛畫。おぶいてぐく巡拝しそ。なかの
宿よ泊まれバやどやのへちかうさぶらいーさ。サアく
中うまくくトあんないしてあくびまでござろう
ござきへつれ参きへあくびまでござろう
いせう。ちとおくらげ
ござれ。モシもうふまゐる
おバおかちんの雨の松の孫ハイ
おざうりいまこバテ大まぶ孫。もおものくて
ちゐる。手数バごろごろどりめご孫ハイ
ことで。午ごう六年ちよりいまそれくらい。
十六年ちよ。ちくさまでおぶくてみるさるハ。
ぶつくさのご孫へされ
ぶがこの春う年おそふ。西北春ふくさのへ

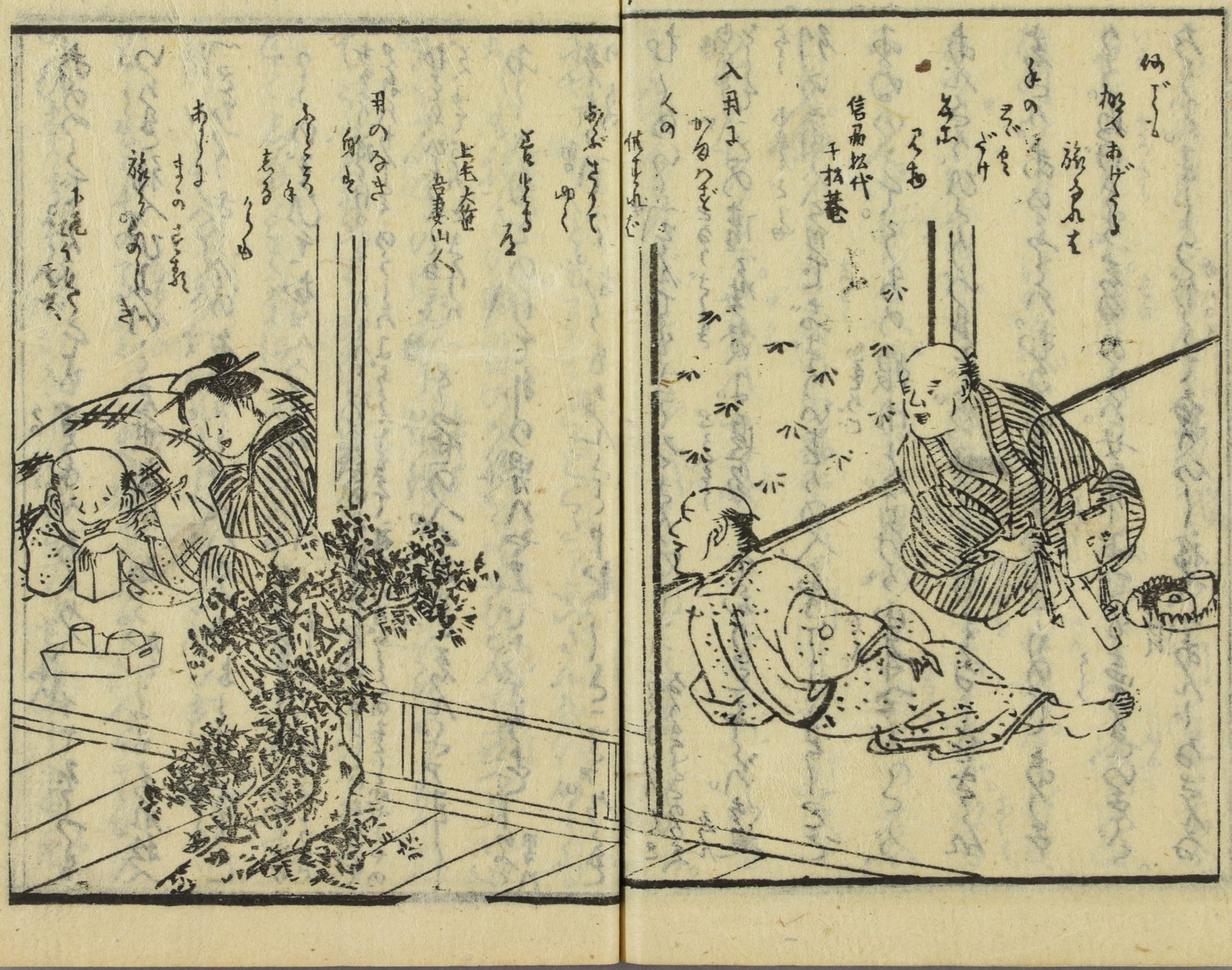
まへのそーふ。おのおのの名ごが。地ごえ人つくしゃのとうう。
おのおのまいりと。我ご地ごえ人つくしゃのとうう。
ちうごれこ。おとそーふ。おやうう六郎んよきうのいとへへへ
なふるど。田舎へ二年ふるのごかへ。ふへへへ
かうそう。まいと。まうちがいそ。ぜへとうのちがもうそ
ふさうしとそてが。もそこのあもへをへ
ふうう。おちきうう
なでうういいー。ト門うてよう。よごふうん。
とうち。ふるとうちまふ。ごふうん。
うくてでるー。新へへ。おまへうふがごニア。お名どう
のへへふさ。名どれふさ。へへへ。この娘岳ご。ふさ
まくふ名ごのおゆーまふおうふうて。そんぢうへ
ふーさごの人がまおふごと。ゆまお名ごへ。名ごの
おふくの。声とうくふ。むくふ。お
まへさまごニア。大ふさお名ごでおうふぎニア。ごふごか
ふるーご。ふいーへと。へうもいいーこの人
陳へむをめくきふてふ。やごでふ。新へへの。ふへへ
つくてめくふまごとのうーい。さごめそうへへ

かろう。ごふぞさちゃ〳〵うよまるせんとそふのうりて
くんなせんへアノおまへさうなものがのこ。
がいる。そんがう〳〵がうのう〳〵て濁十二そろう〳〵いことがある
りんぶ。ごんるおむもろう。そてんかものごへさいぜんそうん
きん〳〵そ濁二むもとあしいものぱ。きゃ〳〵多人へソレ
ごぜん
ぬ猪のこん。おきく。だとうきうで濁十二そ
そろそろハ。みてだろうの。そんちゃくちゃのだあさなぎ
へそうそごてのむもとあごでおごろも濁十二あまう。

おさやアがまあまとでも娘らのうりまるへ
ここのだあさなぎのへこてぶうみのこれ。うこ〳〵そ
げるで。こ〳〵だあさなぎがちうごうと。七おうう一
ふるりを。あのあよへぱでやうよ。なうさく
かいをのへ〳〵あまへまう。ごちうこのあまへまさるゆを
勧てあるこのぶ糸へアノ山のまゃうのお盃〳〵まう。
おまんまをとふて。あう〳〵こ〳〵りみこごろでもあ
アまと。ごこんうけ仕こんくいのをが。ごふも娘をてく

て。ゑいこともござんし〜孫人〜ヂヤ ちよいと入てござんし。
色ぶ よござまして。皐うひらくまして。あでござも会の入こと。
ひろうざうけのうへ。おまけ小揆小繋ぶ。ちげて
あるこらへんざうろ。るるわざ編をいたうざおす
ゆるる人ぶあるめ人〜そんでも闇のる人〜所上のるい
そこへ ちく〜とまる女のかる編でもこれてうこづけて入て
いれておうまを。世界へふるうれもうでもせだい。そうも
そんるくちへござん〜孫人〜ヂヤあれてござまるとりのう。

むくのう〜そんでもきさくいい〜
ゆるきさくそこへこの店る座数よ。返多〜ておうまをふへ。
列の商人ふ而でおざくいまうの人ふてくること
あるのうそ。うちの娘はと。とけが来へ〜こぶ。
あんざう。ひろうづまでいるげのうる。〜をきん
まさう。おのふへ。むぞいけるへまこかのでおうを
うう。ねばくまる女帝ぶでも夢まこいまざ
ろくこと〜つぐ〜てるのい〜孫人〜ヂヤあんでるさんる



あのつぐでうそくでも買うがある女房（女房）イヤそうでも
いうまで無ぺひよめ〳〵と思世帯（世帯）
隙へさうざ〳〵の亀男（亀男）とうでんるおことそこ
〳〵のぞひてあんさうさいく〳〵トいのまでゆくおれ
ちうり（ちうり）ちけ。きと八さうとがうりことのぞきて
アあれバ（あれば）ちイ〳〵そのうへうよりこのそこのそこのそ

いとそうろう。（ぞうろう）もはや春よ（男）せう〳〵（エヽ）だまつや。

こんさまあろうがことをそそる（娘）〳〵（あゝもう）多くて

ござよ春のりんの人（男）（エヽ）（エヽ）。春のびけるの。おく〳〵ハイ。春のび（見非）

あーるへか。孫がみやくちやアるるりん（くちや）

ぢんて。春夜のうち（くちや）ござ。ござで春のござとヤア

（娘）〳〵（せ）ござ。松のまの春ござ（まつ）（男）〳〵よかろうござ〳〵。

こんさの小（こ）をのかろうるの（ろう）〳〵そくいうござ

クヤア〳〵（娘）まあろう（男）エヽ。ござ〳〵ちやくといのできいた

（ござ）そんござ〳〵ハイ。ろう〳〵まの（ろう）てめござアート（ござろうハをくくと）

ハらて。うてのろうくへ（ゆく）きくハられをきてまるし（ゆく）〳〵これくく（浅沢さん）。孫ろうく（浅）〳〵アヽウヽ

ござあーるござ〳〵ヤ大ろうひる（ろう）

尊（こう）をとる（ござ）してきてめござ（ござ）アート（ござろうハをくくと）

そのござおの娘（むすめ）ござ。ろうのござ（ござ）ござ。（ござ）ござ。（ござ）ござ。

（女）だうアのう。おいらア初ぶやくして。ちう初人トうつくまち多福うけうゆびきと八ツもあつて。かそやくも紛ちがまつくうち時多。うつだつあしどもやさつあくあそこ真つ。ごろくざつきの去ろうとおけてそろうと。男まろそおくろうやうふてるゆうひそくとさよ。ろんだの夜アをあけて。夜さへあつこもち。おつれてゆきをきこ八きこそこそく。おきあげうりをへコゆくく注沢さうぐくコリやこちあんぐ初人トきこ八ひとく。まのきあうりのそろし歩て。夜アからあつくようこちかのおくまろのまをあおそよ。そろくくとおそれかれべ。ふこうれのろくぎこれへぞこと。松のまのうちおくおろうくとそおろうち。あこんのかしとぐ。ちろゆ。ちろんの松のまへうけまうぐへ。わくよきこふのそこをふまくそ。足をおくこそうそのまうぐへ。きこうり。男エレハイおつアこんこと。えてきの六時くいぐ。

（女）とんこのかりうあきろやこれをとうが。おこでやぶ（ヒッ）せりくく。ろくぐとおりやアがよこまぶ。かろくそろるこいやア（娘）アこりん。かまちひくろへふきろ。ごうふちあやア。本屋ぐア（こんかう）の人へ（男）とアこヲまろこう。おんぢうこんこぐ。紺の本家（もめイ）のふんぞを。哭てくれと（こう）いうことがヤア。おくハイ。そ多をとうりてやうろいが。脇あくん（こと）。（娘）ヲくかへおもものりてくろいまろう。まんでもひろうぐしよはろんでいくとありやア。男の脇（こと）をこアこ

さぐさん〳〵秘人（男）アニハイ。どんなことでもするからおくにのようすを。今がハイ。ぜひの（男）ト男がとしあさんとうさんがいきておいでなさるうちハ女のおっかさんとうさんがいきておいでなさるうちハ女のおっかさんとうさんがいきておいでなさるうちハ女のおっか

ごんぞやあまめ。うねごんぞやあまめ。うねごんぞやあまめ。うね

隣ごそんじの
ござりやす山家の生まれ山国カハざる
ござり
ござり
ござり

この末笔初あらまほしき事なり帖数おほくなりて彫刻手間賃ものうの事ゆゑ商売編冊ありのまゝの名ふかき人まれなる故に此度ぞくの人情を見る

上列草津温泉道中續膝栗毛十編　上冊

東都　十返舎一九著

春の曙(あけぼの)へいまも東雲(しのゝめ)空(そら)をかゝる時(とき)をさゝ人(ひと)書(かく)茶(ちや)
ふく新(あら)ちゃ。未(まだ)るうけ(う)の鮮(あざ)やしう。信
濃路(しなのぢ)の名(な)ふうかな山(やま)ゆけば。雉(きじ)
かう。初松蕈(はつまつたけ)こいう方(かた)の人(ひと)賞(ほめ)
の生(いき)でもてく。犀川(さいがは)の名(な)を一(ひと)。金毫(こんごう)の光(ひかり)を放(はな)
善光寺(ぜんくわうじ)如来(によらい)の利益(りやく)へ。

福ひ注集の貴神ひきてもまてこゝを驛ことの如昌仏初の日あそこく海浜に清喜名八十ヶ小一宿こゝを立より。上乃草津の温泉あまで。安藤の人ことのこと。

尋称あり世福寺といへる寺あり。

まこゝの荷物を負せ。さて此より行程十八里のあんど。

徹宗しハ大笹駅とて。茶ほまで。

山道ふゝて。仁礼田代大笹のこ駅の外。旅人の宿なく。

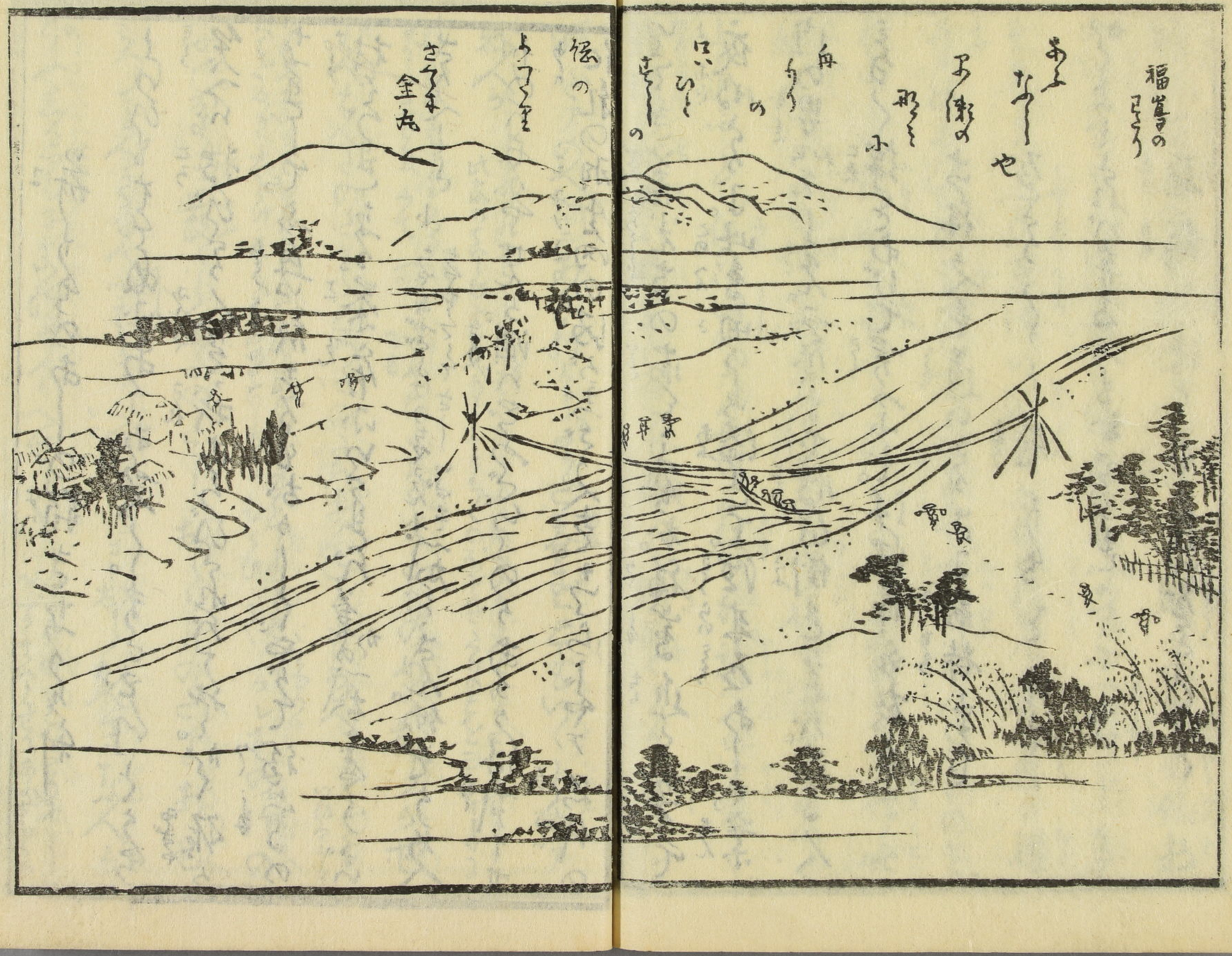
雑談の地のこゝ駅をこきてより。朝ごくより昼をいてゞき笹小えちの海をこゝ右。箱當を過てあそて夜明るころ。此をこ田のあ温泉をて。注来及あゝく。案内の男ふゝん。二度まで此ゝ人こるく拝をあげて咲つゝぞ。

十ヶ称久を過のころさる為特まで

ゐこゝろ〳〵と駕ゝを注く

かくよこゝろをあが喜る八もおこゝろをくれべをこゝろ

駕舗を注ゝく〳〵



祈りもののあーの弱きまうす利

よいひもまでぬかあうあみくぃまでごりとうち
矢へぃ。ぃちびうん人々我まうびられべてぇ。かく祈うまぎゃ
十まうまでてふ鳥い鉄をるもおうーくやて福富の
材そうまをる。茶を告かいうまでぃ善のかぃおちやうざい
ざうへーさ　ト　ちやちゃがざーけのちやうぢんおぃかく。さん仰でうや人
わのやありやせんう酒へぞあぢうくのうあうう孫ぃアイサ
ぃさげてもりまろうおうぢぃえごぬ　ぁてぃアニごめとくうう。よくこうりのめうぢ。おくぐせ
どくまへさのざうぃぢろさのうぃ。ぁてまろへトうぢとろうう
うちくおうろくおうてめくとうぃ成ろうのうぃ
ちぢごまでろけまうぅうちめてぃもよんくぃコレその竹の
てみへぢうぐ義うぃ虫さのざうぃ。おくぐりのごまあせ
ごうてうくまるくぃまむアニコレおうぃかくまこなぁ人ぐ
ぢぐぇまるぐぃトうさんの竹のことをうおうまるぐぃ。

あるで。ごろさくでも。ごろうぶ。ごろうちの子とろう
つぐとゆ人なごと八百ちなるで。ゆうく。さろをひき
ちろう。ぶ人ぐ。ちぐろゆーる世人ぐ。ぶ
どこの竹のまとっちぐつめぐろうちろう。ぐ人せとろ
ぶんでござーアの人ぐ人ぐそんさの数ぐでこちゃアーま人。
ろうぐ。神人ちくさのござアの人ぐ人ぐ。ぶ。ぶ。ぶ

ちり
竹のそバさ
もんぐあっ。それぶっ
でると生ぐる。
そのうーの子と。
こーこそをとり
うーんろのうーでも
コリヤおめのうへ
おるりぐ
もんぐあっ。

うー
コリヤ
うん
うー
ベヤ
うー
ちん
まー

三人のこころ。
あっ。もも吉陣へ
尾ハおーぐりぐ
のへいこでも。
かんのこれさの
いこころ人で。
こぐろとまれとを
ヨーカゲン

せつちん
もえうん
サン
とうり
こりや
ふーん
ベラぼう
とやお
ヨーカゲン

つろくかるをとこるくるも中けぞあ〳〵
そのをきくさハきさあ〳〵るぐめ〳〵てアく待る世へさうさうく。
さそやくいんべ牛のさよと雪降へいんざうあ〳〵ていひ
分ちあ〳〵ぴ汁おつて筆の一体ぐへコヤヨ門ちぐ伸人
ざ初〳〵日せへ牛のよハこをとろへいお牛あるさ〳〵三本
づつさけさせへそをとで双方十ぐへあるめへ徐ト
夜ちさ〳〵今日ていぬべ。これまそふさうさ
そうのていしもいまへしてまやくとうちのていしも一コヤ牛おやあさ
おもろざへでちざうへしくへ。モレおやへおやう名〳〵く
十ざうへちさろうの人一十二升めでそ〳〵

こでもあるてさ、サアきてこハいろトけくとを主事として
牛のよと争ひちざうへ久氏
さざれふ〳〵のさ〳〵山坂をを
かくて仁義の説ふうう、ちあ
やうなおのあとよう此をこの男徳利
ふろ〳〵きづくと日どとを着の人
そき
ろのいへ着までざざうへやとれ徐さ氏の一門ナサ名れおひ
とのうでざうへ人をこまれとこ小代いあめ南さへふうおちゃいへ

十返舎

（男）「でもうちのお父さんもお母さんもご入いらっしゃるのに草津へ行くなんて、そんなお金がどこにあるもんか。」

（娘）「大丈夫よ。お父さんやお母さんの入れる分ぐらいは、私がこれまでに貯めておいた物をみんな売ってしまえばできるわ。」

（男）「そんなことをしたら、お前の着物はどうするんだ。」

（娘）「着物なんかどうでもいいわ。」

（男）「そうか。それじゃ、トうとうお前の着物を売ってしまったのか。」

（娘）「ええ、とうとう着物を売ってしまったわ。」

（男）「それでもまだ足りないだろう。」

（娘）「ええ、まだ足りないわ。」

（男）「それじゃ、どうするんだ。」

（娘）「それで、私の身体を売ってしまったわ。」

（男）「ええ！」

（娘）「

いやア。返ちやもー私くでいきおつとらづくとおうーくおうろうろうて
（男）あこさんが生まれどうぞ。おめくあげめて。長寿さうよ
ものを。授（あい）授もー私くとうぞ。アニ和尚（おしょう）めの。ゆうもう私く
（男）くろくうアニもうもんうろー。おぜこーのの名ん今七ついよ。名ん
舎弟くくらぶうう。おぜこーの名ん今七ついよ。名ん
いいなくで。舎弟さアごふいよこんざくろー今のなお
ざよ。きんさいんがおうつとが。むさもうろくうーて。
あんともいんちんざごの人（男）ハアその今弟とうふことお

ちや　居ないそれ（これ）ぢやと　おとゝ　ぢいさま
ぢもと　及て　（これ）ぢやと　おとゝ　ぢいさま
きさまこりや　金弁。　ぢいさまおやうの
いろ〳〵。　雪ぐつふぐつど（男）ぢ　おけつちやア。　ぢ〳〵　ぢさま
とおかよろの（そ）ぺコ　よくちのせるアめが。　ぢ〳〵ごとく。　あぜ
金弁　よの（そ）ぺ　ちろめが。　あゆをくぜるちやア。　金弁
ぢ〳〵　人（男）イヤ　ぢいさま　ぢもの　ぢやくが　きたてあ
ぢ〳〵　人　金弁　ぢ〳〵　壬生の　ぢいさま　ぢ〳〵　ぢ〳〵
きさま　人（男）イヤ　ぢいさま　ぢもの　ぢやア　ぢ人。　ぢ〳〵
ぢやくち　ぢ〳〵　ぢいさま　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵
ぢやくち　ぢ〳〵　ぢいさま　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵

そんさう。　伊兵衛（いさゑ）　畑（そね）　ぢいさま
あろく（そ）　ぢ　あま。　ぢいさま
ろんごちやア（男）　ぢ　あのろんさア　ぢ〳〵　ぢ
おりよろの　ぢ　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵
の（ひの）　ぢ〳〵　おろんろこの　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵
ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵
あぶく（ムセウ）　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵
めが（そ）　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵　ぢ〳〵

てくろう　トろまでるうつくあの中にきてろ　男
つきこがさえそがかとまちるあまこと上　アイタヽヽ　金玉
をぶつけとアイタヽヽゆゝあゝが金玉をぶちつけとヽヽヽ
きんたまが　男　ごくうくろうそらゝゝゃア
るくうかをてくまさくうとこぞくおこてきさゝまと
男　アニヨ今まであることがむざとうくおめうちふおおめ
てまへゝ強人　男　ンヤかりてまちがくうくせ
るかあゝがきんたまをごふゝとこの人アニンレるくうくがある
ゐんへドりくそをわゝくあるかりものと去うもまきまくうく

きんたまぞの人　男　ゐるくのの玉がるくうくうつりや上人
ゐるゝゝあげとこのごろうくうくうく

仁礼宮より
大明神へ二
大こもりじんよう
中の沢より
中の沢へ二
きぶさへ二
階沢より
田しろへ
二り
此あたりは
村さとゝおく
山のふもとゝ
なりて
階子山の
うしろを
ゆくみち
なり

いさゝか
月の
階子山
保名
恩舎
一得

いまやせうバイお世話ふろうゆ〳〵とこのところをよろこんづる。
陰裏のふぬきぐうへの事ひも

ふんでうぬ　ふをくみなくて

そもとより中の澤とゐもをおもそだ。温泉の遊場ふいくる。世界も谷当ふろそえ軒ありて。ふ千あまう乃むさくるしき親仁ふ当ぐふ茶をくてきとうをおのづ〳〵人のひもあるき
茶も温澤の山家をぐちう

宴会去だう〳〵体そそを出るう。まべて此あらう村里
ふそえぞ。温泉山のうへう通ゆて掛まきゐみるく。芝
つきの当そうだもふそて退屈のあるふ
別トふハ。種ひふ〳〵おのうへ移人こちで暁のこる
も。ろくぎやアあるめ人う〳〵。麓よひと川新宿ぐあうや
まど。あんでもふうう。雑貨とう。ふそて。こまうて見
世〳〵やア移人ふそのひ種ぐの。トレくおよこう
遠を出そよふんでもふをこひとりのぐそ同

かぶるのこぐ私ゐ私ヨウトよ
てもおくでいさてさぐつてもの
私年でおるるぐ〳〵そふきそ入てた
キンニそおざろけ。ソレくたそごやへ来さそ。そもちとおさ
のこやをとトたそごやのかぐぶハイよふお生ちきりへしく
ふろうづ生ごぐそ夜ぞふぞ。お私をやをプんな
さそこそう。ちを同ぐ方自由るり歩つてこの男へ
かるつんぐそおざりやとそうく。雪面倒ぶろうれ生ぐ。

のふきさハつくそ
あうさぐろのハ私人ぐ〳〵あのそそうで。十ちりたて
やをキンニそ生ち自由ぐだぐろ人せう。てヤ おお
ぐうたまう人〳〵トは同男ちうはおをもつてろくふそろくれおしくを
今のふその嘘ちうくー。
ちそのめきこ入てるいくの同そよさ。おいうもちのこそう。
同をあんてあろアイナりよ。ちのかャのつらいけ私へ
あるこでも。女そこいひそるつろそろ私人

ろうぐ〳〵（娘）「ヲヤト（おや）地蔵（じぞう）さまの（同）ござる〳〵
うちうちそうぢ（ぢ）ハ九のいろ〳〵ろを
おさめちやとそうろう〳〵おもちやおあがりあそうへ
（娘）「ヨイ〳〵十五六はちそうハレ酒呑さん。茶ぐでそれ
をあがり
座ぶとんをこれ。コレ茶碗のそこ
をでもゆぎるめんでのみおむをそんざうろうれの。
コレや。あくとくろうろう私ども幸抱ところ
（娘）「まつさだとのえいあく人とそこ
（娘）「ヨイ（娘）「ろう幸抱ところ
（娘）「十二馬ぐを載をろう。ドレぐでもおくれ
（娘）「ヨイ〳〵（娘）「ヤレ男の

いろ〳〵をみんなろうぐろう。十ろりのさ。ころ
のとれ〳〵酒がある〳〵。二合貫てそんをせん
大笹の向屋の酒がよいぐでござろう。
ろう。おげんせうト（娘）「ろうてゆく。酒をこれ
まんごろでもるきゆん（娘）「コリヤ同ぐあいてぬ
娘ぐろうぐ。ろろく（娘）「ホンニよつて乃
ろうろう私をよびるぐろう。ひそくとをる
今のむをとめぐんをうちもきそ。きろる
十ヲ（娘）「ヤレ酒ぐ。菜をそりてやろう
（娘）「ヲヤよりく。ころにおそし

泊(とま)まるまでこうかいて参(まい)りますから今(いま)おつまさるなが。お
がりてお出(いで)なさりませ。やまこを出(だ)しまする女(おんな)
ト申(もうし)ますやもびみ。さうざきをさきさき。延(のば)
ますとつきうちとそのまたさうざきをさうざきを
あうげてくくくくと申(もう)ますくくくくねをとるのご
おつまさるなんぞのその人(ひと)なんぞ。ぶつまはをくくさう。
そのさう。石(いし)ありとがまるまでこれ若人(わかうど)十二おつもうでん。
おまけのかまそ。おうてざうくくくと申(もう)ますくくくくねをとる
ぶうめさうそのまを喰(くら)てまるまする女(おんな)さうなんぞドルくヤア

香物(こうのもの)のまうこうや生(いき)じれん糠(ぬか)こそ漬(つけ)の大根(だいこ)を。まホ
つうふくん。そんぞものをこそせる門(もん)二今(いま)ものおうさぐ。
おまえさんのひとのうくぺかうのかんのくらけとをいま
ちまうえくくと言(いい)ますのとてまるぺ若耳(わかみ)ありい。
石のくちぐ多(おお)もめけてみる女(おんな)よう。うくふぐ
けてうく移(うつ)く姉(あね)さん園(その)ちの女(おんな)。さの男(おとこ)へそうく女
ゆへよこんるようんぐうふるうさ女(おんな)ゆへとうふと。
人(ひと)はいつぐ。あんまり夜(よる)寒(さむ)ちと買(かい)ますぽンニ

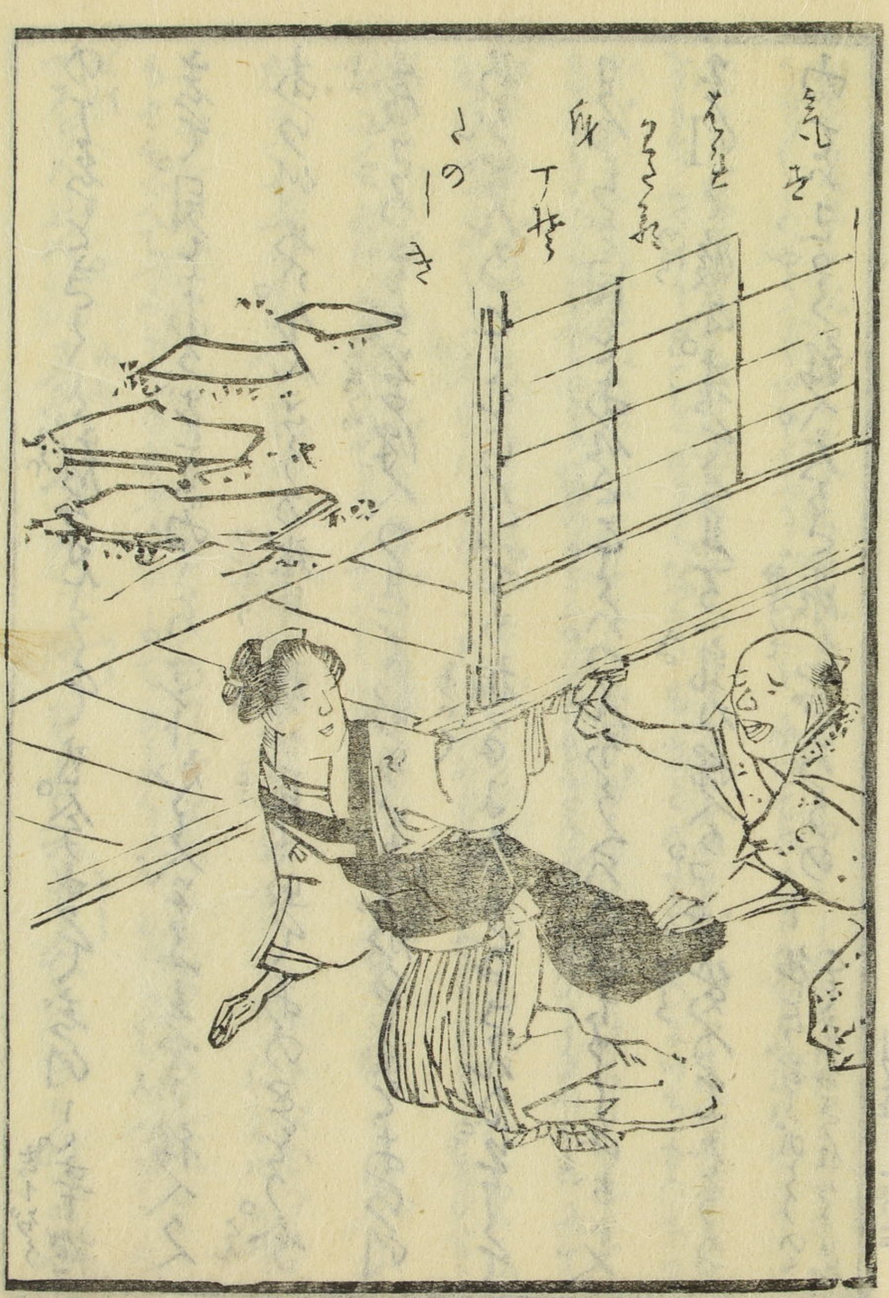
あんなつてそ。強情(ごうじやう)な女ぢやぢやないのおとゝゆふ
ろふん癖(くせ)がありて。女の服(ふく)のうへてのるとひけきりも
ちやくちやくと波(なみ)をうつをがうせて。女の顔(かほ)とよ
ぢ上ぢやけまろうふ。ざ上でもうさぢやけて。こゝろ
の拍(うち)まろるものぢ私(わたし)うふ。まろとろ〳〵は秋(あき)とう
出(だ)してうんとこさ癪(うさ)をまろて。ひろ〳〵吹(ふ)つころ
やうく此頃(このごろ)ちいかの〳〵癪(うさ)りよ
かいやるかのでちやうとをとゝぎ〳〵とてもまろて

さるうつかのぢやうまの男ぢやんなまふさけやうが
かるまぢ例(たとへ)てもよろうさえんな毛(け)私耳(わたしみゝ)あんぢやんう話(はな)を
まてやさを。後生(ごしやう)ふかのぢやうねぢやことを例(たとへ)でちやん
るよろくいそれてるまろ。ろ〳〵名(な)ぢ伸(のび)ぢや〳〵ゆんニそよ
いひちや女(をなご)をとこ。ごやう癪(うさけ)をのあろをみる。いろまひ
のおろこ。ほー。さろきろ〳〵。おろーげなまろくろんな。旬(にほひ)
ろろくおかんぐんーぢや。それでをめくーさの人(ひと)ニもれろ
かさぢやぢやんこりくきころくぢやくソレ約束(やくそく)のところぢぞ

（娘）今のぶきようなこうおさまるかろっ
あてどころがようもきこえるかの。
（娘）ちゃんとしてもきよろうがえーと
（娘）ちゃんとしてもきよろうがえーと
（娘）ちゃんとしてもきよろうがえーと

つんぼうこんなよ耳のきこえる、う徳様。そして姿をみ
でとりうてた。激磨も移人おとと。念のこもっまうとうて
見せやうこれを女机を投ぐてやうぐごこみひとり
出来かのおとも移人かうぐぐきづくのきんのごも
移人うう。もう人ごみぞ。そ私古の机をの
きいてうまへ移人うさいんなとぐアノでうえく
へんうしてはたかく。言とうかのの根性岩のいけ
移人かのぐうく。おいうのまんでだゆうもうつんぐう。お

ん人のこころうまで。激よそろ
ひきよをそ。あやおこうる更、ねうくもろ
さぐノ一面とうるぐれば八ねうをもぐ
おうう。ドレ名うく福よまうう
むをあるよ見せるつかうぐ人もく
むをかべきつをつぶ。そうくみげゆ
激言しおめへびうう足ところ孫。月ろ
つまのやめへ。ちんさうのかうう
みこぐぐ。月ちんあの強年ふ。
の福名うよう私ぎうう。めくう人



のてきくく新ぢんそくて
ござて。月をおつぎなねこ。トントかくんそふぎやァ移人久
あいりめく。ん。さうの銭耳癒ぢ耳へ出てあのそろ今
ど食ころちぢ。ぎ浮へつとてめ
めぢ。ぎんっとこいりても。指をよるりみさんる。そして
さろちぢ同とあんことそ。つんがうへさちぢ。おめ人
そりと渡ぶ。来てらるろ乱り移人ろコレサ笑へてだろう
おてところう移へ。大ろさ承ぶぎろろの下後とあく。のうの、
こそまみさんれくまぶ

私ともあさぢ。つるうそぢちゆてくんでちりくくよ。ぎくくゆてあきくくあとくゆへもよう
久くろと。浅てんまと同とあるくく。とのうまをもちきくう。とこととろと。浅ろうをゆへをくぐは移てこびんまもさ
まるくくと移てこびんまもさ。ゆうちみさと乱はみりくくとおまとあと。ぎうちみさと乱はみりくくとおまとあと。ぎうちみさと乱はみりくくとおまとあと。ぎ

トめうとつんぢう。へろろうさるちゃかく
おろ〳〵せるろうれあ〳〵ごさ〳〵まよ〳〵やふる。つんぢうのひおろ
さが。ろさア同が多人多人で。まちごさ〳〵てつんぢうのやうホ
へ〳〵とおろこがぐちん同をもまきごさ〳〵てつんぢうのやうホ
きでよろくなろうへまれ。むぞどをあるへようんごアの人ト
いるれそうろう〳〵て〔ホン〕そみぞろけトまろ月とまろぎごろるもおろ〳〵く。
かろ〳〵て〔ホン〕そみぞろけトまろ月とまろぎごろるもおろ〳〵く。
ぞひよんのうちよゆあ窓生お移そ考なひをあをく〳〵まろくよろろろう
ケまあひろろとおりがみぞろもろそでつをやてしぐろんの上おりさ
おろう〔ホン〕
るぞろ〳〵わへまりんぢんろるろせるあよまあつこトひろごとを
なるが〔ホン〕
なるが内おそ〳〵そんぞつまろ移へとをを〳〵トまぢゃみおろてぐらふ
まくろいいさとろろ〳〵

おきいで。とあとつろろうちぐそやぜんをもち出〳〵むをとんさそ〳〵ぞころ
ちやくそのうち女きろ〳〵ぐをまろぐろ〳〵そんぐろのろちをとそそん むせろみとろひ
おろ〳〵ぐるいゆみぐくことむとおろろそろ〳〵ふきしとおくそ。おろんふ〳〵ろひとも
まろるぬぞおろうんぐろをふろしたをんぐろ〳〵もろひ

ふく草(くさ)津(つ)の温泉(ゆせん)そいくそ度(たび)も
生(あら)ふる湯(ゆ)の芽津(めつ)ふ末(すえ)そうれまで

今(いま)を さうとひろく湯(ゆ)の
花(はな)

續膝栗毛十編上冊終

十返舎一九

新潟市立図書館